



2.0 TFSI 4気筒180馬力を誇る直列4気筒ターボエンジンが搭載されている。6速DSGの6速自動変速機と組み合わせることで、少ない燃費で高い燃費効率を実現する。



主要諸元：(AUDI Q3 2.0 TFSI quattro)

- 全長×全幅×全高/4385×1830×1615mm
- ホイールベース/2605mm
- ステップイン高/1570mm 後/1570mm
- 車両重量/1810kg
- 0-100km/h加速/7.5sec
- エンジン/194cc 直4 DOHC 高燃費インタークーラー付
- 最高出力/211ps/5000-6200rpm
- 最大トルク/28.8kgm/1800-4300rpm
- CO2モード燃費/12.6km/l
- 安全装備/ABS/ESP/ESC
- ブレーキ/前/ディスク 後/ディスク
- タイヤサイズ/235/50R18
- 駆動方式/4WD
- 乗車定員/5名
- 車両本体価格(札幌地区) /4,790,000円(消費税込)

ボディラインに個性を演出しているため、際出し感や存在感が強い。また、室内空間は広く、快適な乗り心地を実現している。また、最新の安全装備が充実している。また、最新の安全装備が充実している。

**待望のコンパクトSUVが登場
上質感・スポーティな走行性能・
低燃費を高次元で融合**



Audi Q3



■アキストー橋山 歴史(Lucky Wagon) ■Photo=川村 新(川村写真事務所) ■取材協力アウディジャパン (011) 851-3154

プロフィール

■期待のプレミアムコンパクトSUV

1.9リットルエンジンを搭載したコンパクトSUVの王者が、再び登場する。その名は「Audi Q3」。この車は、従来のコンパクトSUVとは異なり、プレミアムな質感とスポーティな走行性能を兼ね備えている。また、最新の安全装備が充実している。また、最新の安全装備が充実している。

■エクステリア、インテリアともに抜群のバランス

エクステリアは、流線型デザインを採用している。また、最新の安全装備が充実している。また、最新の安全装備が充実している。

■低燃費とスポーティな乗り心地を高次元で融合

2.0 TFSI 4気筒180馬力エンジンを搭載している。また、最新の安全装備が充実している。また、最新の安全装備が充実している。



本文中にも触れているが、街中での軽快な走りは期待すべきものがある。ポデューイ丈がもうどうも長く真仰りも高いので、狭い道でも安心して走ることが出来る。今更長距離を走ったわけではないのだが、長距離運転でも体力的な負担は最小限に抑えられることは間違いなく、両方を見守って欲しい。荷物も乗せてよし、両方を見守ってよしという、まさにオールマイティな使い方ができるクルマだ。初めての取組車を志す方々には是非とも一筆試乗して欲しい。エントリーモデルとは異なる走り、スタビリティに思わず驚入る相対するほど能力を備えた一台だと断言できる。



ディーラーメッセージ

アウディ月寒

販売課 池田 憲昭さん

アウディで革命的なライフスタイルを好む方々をターゲットに登場したQ3は、ドライブの楽しみを高める一方、燃費も考慮した新型モデルです。公道に強いアウト・システム、高効率化によって低燃費を実現したTFSIエンジンや7速S・トロニックなど、アウディのテクノロジーを凝縮した、上質のプレミアムコンパクトSUVと言えるでしょう。是非ステアリングを握って頂き、その賢明、パフォーマンスを体験して頂ければと思います。



■軽快な走行フィーリングはファーストカークの資質十分

テストドライブに使用した車両の駆動システムはアウディ伝統の4WDクワトロ。路面状況に応じて前後軸のトルク配分を電子制御することで、快適な走行フィーリングと燃

■軽快な走行フィーリングはファーストカークの資質十分

インプレッション

1-3-5-7-9-10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-72-73-74-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90-91-92-93-94-95-96-97-98-99-100

1-3-5-7-9-10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-72-73-74-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90-91-92-93-94-95-96-97-98-99-100

費を実現する。ステアリングを左右に大きめに振ってみると、大型SUVにはない軽快なフットワークを感じる。ワインディングに持ち込めば、なおさらそれを実感できることだろう。特に1-6-15の車高と重量。そしてフルタイム4WDの影響で、ステアリング操作と車体の挙動に若干のタイムラグは感じられるものの、あくまでもセタンと比較しての感覚。SUVとしては極めて軽快なフットワークである。冗費分のQ5と比べると35mm低い170mmの最低地上高も影響している。

かつて日本にはRV（レクリエーション）ビークルというジャンルが大手を振っていた時代があった。しかしここにはそのフットワークの概念が欠落した車も存在していた。現在主流のSUVの「S」はスキーやMTBなどの本格的スポーツから、音楽活動やピクニックのような趣味・娯楽までを含めたスポーツ・アクティビティ全般を示す。ファミリーや仲間同士での楽しめた時間を、楽しく快適に過ごすためのクルマがSUVという位置付けになるが、居住性・収納性・快適性・走行性といったクルマの基本要素に加え、ワクワク感や期待感といった要素つまりライフスタイルの表現という面も欠かせない。駐車場で取り回しし、そしてもちろん低燃費も見逃せないファクターとなる。それらの面から総合的にQ3を見てみると、Q5シリーズの中で最も扱い易く、都合よくに最適なクルマと言える。Q7のステアリング性は別格だが、全長5m超のボディは日常には少し大きいし、同じ2.0エンジンでもQ5もいかに日本の道路事情を考慮するから、より小型のQ3も積極的に候補に入れるべきだろう。